

令和5年度 第1回庄内町社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年6月20日（火）午前10時00分～午前11時50分
- 2 開催場所 庄内町役場本庁舎B棟2階 入札室
- 3 出席委員 佐々木正明・齋藤純子・柿崎寿一・足達祐司・上野幸生・鶴巻文臣・富樫豊一・村上久夫
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 教育長・社会教育課長・社会教育課長補佐・社会教育課主査兼社会教育係長・社会教育課主査兼図書館長

進行：社会教育課長

委嘱状交付：代表して柿崎寿一委員へ交付

川村昭三委員について、4月3日に一身上の都合により退任したい旨の届出があったこと報告した。

1 開会 社会教育課長（午前10時00分）

2 教育長あいさつ

日頃より社会教育の推進につきまして、御指導御協力を賜り心から感謝申し上げます。

6月17日、18日に中学校では田川地区総体があり、県大会の予選会が行われた。本町の立川中学校、余目中学校の生徒が最後まで頑張り抜いた報告があり大変嬉しく思っている。

さて、社会教育は幅が広く多種多様なため、令和5年度社会教育の活動の重点を4つに絞り話したい。

1点目は、「まちづくりセンターが行う社会教育事業の支援」について、家庭教育力の向上、共に学び続ける学習や交流の生涯学習の機会を提供することで、生きがいを推進していきたい。町民の皆様が幸せな生活が送られるよう期待している。

2点目は、新図書館の外観が大分出来てきたが、「新図書館開館に向けた利用拡大のためのサービスの拡充と情報発信の強化」である。図書館の分館は7月18日にリニューアルオープンする予定であり、図書館の本館は9月30日に仮オープンする予定となっている。

3点目は、「休日の部活動を段階的に地域移行するための体制整備の検討」を今年度から3か年で行う。今年度は、月1回以上は顧問の先生が付かないで練習することとし、地域指導者より指導していただくこととする。令和6年度は、モデルの部を試験的にコメっちより受け入れていただく。令和7年度には、すべての部が年度末まで完全移行を目指すことになる。昨日、第1回目の部活動改革検討協議会を開催した。今年度はもう2回開催する予定である。7月24日に部活動地域移行に関する説明会を響ホールで開催する予定である。対象としては、外部指導者を含めての地域指導者、中学校の保護者、小学校の5、6年生の保護者、関係団体の方々から集まっていたいただき、皆さんに周知しながら御理解いただき進める予定となっている。

最後4点目は、「放課後子ども教室の推進及び支援」である。地域の方々より御協力いただ

いて子どもたちの安全な居場所、いろいろ工夫しながら活動を全面的に支えていただいている。全小学校区で活動ができるよう体制が整った。安全に子どもたちが活動できるように教育委員会としても支援していきたいと思っている。

結びに、今年度も社会教育に関して、御助言御協力をよろしく願いまして挨拶とさせていただきます。

3 社会教育委員について

【事務局】資料に基づき説明

4 自己紹介

5 議長並びに副議長の選出について

議長に柿崎寿一委員、副議長に上野幸生委員が選出された。

6 議長あいさつ

只今、議長に選出された。これから2年間よろしく願います。社会教育委員としての経験は長いですが、まだまだ分からないことがある。皆さんからの御指導御協力をいただきながら進めていきたい。

7 議事録署名委員の指名

議長の指名にて、佐々木正明委員、齋藤純子委員が指名された。

8 協議

(1) 令和5年度庄内町教育委員会の重点と視座について

【事務局】資料に基づき説明

【議長】聞き書き甲子園は、具体的にどのようなものか。

【事務局】地域の伝統や技能を様々な面で昔から引き継いでいる6名の方に内々をお願いしていたが、正式に実行委員会で採択された。

【議長】是非、庄内町をPRしていただけたら有難い。

【委員】スポーツ少年団本部は今現在どのような体制で運営されているのか。もう一つ、資料の社会教育関係職員にある学芸員は図書館に配置されているのか。それ以外に本町に学芸員はいるのか。いるとすればどちらに配置されているのか。

【事務局】スポーツ少年団本部の体制だが、事務局は指定管理者のコメっちわくわくクラブが担っている。加盟している団の数は22～23ある。スポーツ少年団本部の運営に社会教育課は関わってはいないが随時、コメっちと当課で情報共有を図っている。

【事務局】学芸員は図書館に属している。内藤秀因水彩画記念館の運営を主に担っている職員となっている。町内では、亀ノ尾の里資料館に1名学芸員がいる。双方の学芸員同志で連携を取り合いながら事業を進める場合もある。

【委員】スポ少については直接の関りはないが連携をとっているということだが、休日の部活動の

地域指導者体制への移行のことも踏まえて、これから説明会も計画されているようだ。スポ少に属している子どもたちや保護者の理解が必要となってくると思う。説明会で理解を深め強化してもらうことが大事だと思うし、それと同時にスポ少内での体制移行の理解の徹底を両面でしっかりやっていく必要がある。コメっちと打合せ等を行って相互の理解を深めていただきたい。

【事務局】 4月から改革推進期間の1年目として具体的に動き始めているが、周知の一環として、スポ少本部の総会の挨拶の中で地域移行のことを説明させていただいた。今後7月中旬にスポ少本部理事会がある。4月の段階と変わってきている部分もあると思うので、御意見をいただきながら周知を図っていききたい。

【委員】 休日の部活動の地域移行に関して文化部門はどのような状況か。

【事務局】 文化面の部活動も地域移行をこの3か年で進めていく予定である。施設面や備品の関係で、特に吹奏楽部では楽器はどうするかとか、施設はどうするかとか課題が多くある。また、指導者によって演奏の質、音楽が変わってくるという課題もある。昨日開催した検討協議会や文化部の関係者と情報を共有しながら、一つひとつ課題解決をしながらスポーツ同様、地域移行できるよう進めていきたいと考えている。なお、受け皿は現時点では、響ホール事業推進協議会と考えている。

【委員】 まだ、雲の中という感じである。

【委員】 体操センターの解体は翌年度からやると決まっているようだが、重点と視座に代替施設の検討とあるが、どこまで進んでいるのか。

【事務局】 代替施設として余目第四小学校講堂の可能性について指導者の方と話し合いをしている段階で、それ以上は進んでいない。子どもたちがどこで練習できるかということをしつかり決めてから解体に向けていききたいと思います。

(2) 令和5年度庄内町社会教育事業計画及び事業概要について

【事務局】 社会教育運営計画及び図書館並びに内藤秀因水彩画記念館運営計画について、資料に基づき説明

【委員】 新図書館の姿が見えてきて、形になってきて期待感、楽しみが膨らんできた。雑誌スポンサー制度について面白いと思った。現在、確約とれているのが幾つかあるのか。

【事務局】 これからである。要綱の整備がやっと出来たので、これから働きかけをしていく段階である。

【委員】 具体的にどのようなやり取りを想定しているのか。

【事務局】 個別に企業を回りながら一本釣りのことも考えられる。商工会や上部団体の方に働きかけをしながら、スポンサーになっていただく企業を募り、そのスポンサーに手を挙げていただく。概ね1年以上ということで、図書館の方にお金を払うというのではなく現物を指定の本屋から届けていただく。企業は本屋へ年間購読料的なものを支払いしていただくイメージである。

【議長】 二十歳のつどいは、社会教育委員にも案内くるのか。

【事務局】 コロナ禍のときは、県議会議員と町議会議長のみとしていた。今年は、社会教育委員の皆さまに御案内させていただく。

【委員】 二十歳のつどいの案内の対象には、小中学校の恩師は入っていないか。

【事務局】 中学校は入っている。

【委員】 小学校の先生と会う機会がなかなか無い。自分の子どものこととして、成人式のときに小学校の担任の先生と響ホールの廊下で再会を喜んでいたことを思い出した。小学校の先生にも会いたいだろうなと思う。

【事務局】 1回目の実行委員会は開催したが今後の実行委員会にて、小学校の恩師もという話で進

めば御案内を差し上げるということもあるかもしれない。昨年までは、中学校時代の恩師のみだった。進め方や企画に関しては、実行委員会で決めていくことになっているので尊重していきたい。本日の社会教育委員会会議において、このような話があったということ伝えたい。

【委員】 まちなか図書館について、具体的な検討はどうか。

【事務局】 各まちづくりセンターの方にも少しの冊数だが置いてあるが、なかなか新陳代謝を図るのが難しいという現状がある。図書館には多くの蔵書があるので、それを回しながら、より新しい本を設置していくことからスタートしたい。

【委員】 放課後子ども教室の子どもたちは、まちづくりセンターにくると図書コーナーで本を読む子どもが必ず何人かいる。どのくらいのサイクルで本を更新しているのか。充実のほどよろしくお願ひしたい。

【委員】 ボランティアのスキルアップ講座について、タチヨリのオープニングイベントとか事業には、小中高生へ呼びかけをして子どもたちから来ていただいている。年一回の研修ということだが、時期はいつを予定しているのか。

【事務局】 7月中旬を予定している。南三陸町の子どもたちが今年来町することから、そのお手伝いをしていただくことになる。事前研修の意味合いも含めて、7月に開催予定である。

【委員】 ぜひ早い時期にお願ひしたい。

【事務局】 まちづくりセンターの小学生の事業で、中学生が年5～6回手伝ってくれる。そこでスキルアップが図られているものと思う。この前の余目第一、第四学区の地区運動会では、中学生が大変活躍されており頼もしい限りであった。そのような機会をたくさん作っていきたいと思っている。

【議長】 ボランティアのことで、町内であればボランティアが集まりやすいと思うが、狩川の風車村の事業に高校生や中学生が参加しようとした場合、風車村に来るまでの交通手段として、バスもないし自分のお金でくることも出来ないとなった場合の対応はどうなるのか。

【事務局】 基本的には、保護者からの送迎となっている。森森で開催する場合は、余目第一、第二、第三学区は響ホール集合として公用車を利用することもあるが、これは特殊な場合である。課題の一つであると思う。

【議長】 庄内町子ども読書活動推進計画（第三次）を2年間延長し、令和7年度までとすることについて、何か御意見ありますか。

【事務局】 委員の皆様から異議なければ、賛同いただいたと受け止めさせていただき、引き続き準備を進めさせていただく。

【議長】 それで、よろしいか。（異議なし）

【事務局】 補助金について、資料に基づき説明

【議長】 今年度新たな補助金はあるか。

【事務局】 単年度補助金の令和5年度庄内町「清河八郎」大河ドラマ誘致協議会補助金は新規になる。また、継続する補助金等の庄内町指定文化財補助金は5年ぶりくらいに予算措置したものである。

【議長】 金額的にも同じくらいの予算か。

【事務局】 大体同じである。

【委員】 令和5年度山形ふるさと塾形成事業活動助成金について、対象の5団体の内訳を教えてください。

【議長】 対象は毎年変わるのではなかったか。

【事務局】 対象の5団体は宮曾根神楽、千河原民俗芸能保存会、余目大名行列、家根合獅子踊り、南野神楽保存会である。

【事務局】対象となる15団体を一年5団体ずつ、3年で一回助成するようにしている。

【委員】清河八郎大河ドラマ誘致の関係だが、数年前から誘致すると話がでていたが、最近のはぼり旗が商店街でよく見かけるようになった。進捗状況はどうか。

【事務局】平成30年度に、ふるさと応援寄附金の250万円を基金化して活動が始まった。今年度、財源的に不足すると予想されるため、これからクラウドファンディングにも挑戦していきたい。会員募集については広報6月1日号に掲載し、個人や企業の方から会員になって頂いている。令和3年度にNHK山形支局に要望活動を行い、何よりも地元の盛り上がり的大事であり、そこから始まるということを教えて頂いた。町内企業にもお願いして、のぼり旗を設置させて頂いている。プロモーションビデオも作製し、清川関所では毎日放映しているし、昨年度からは庄内銀行や庄内余目病院の待合室でも放映して頂いている。小学校では副読本のほか、給食の時間にプロモーションビデオを放映して頂くようお願いしている。徐々に町民の方、県民の方から清河八郎を知っていただいていると思う。大河ドラマというと大変ハードルが高いが、一方でいろいろな資料の解説作業も行っている。東洋大学教授や明治大学名誉教授からも協力をいただき、清河八郎の固定したイメージを払拭するような資料の解説が進んでおり、清河八郎のイメージアップを図っていきたい。昨年は東洋大学の岩下教授の講演会を記念館と共催で開催した。NHKの大河ドラマを誘致するには50回の放映に耐えうるエピソードがないとクリアできない。何が必要なかを考えながら活動していきたい。商工会女性部からも観光ガイドとして、清河八郎を知っていただく活動を展開してもらっている。いろいろな方面で誘致に向かって活動している。2030年が生誕200年という節目の年に当たるため、そこを一定の目途として活動を強化していきたいと思っている。今年度は町から20万円の補助金をもらい、活動を強化していく。

【委員】令和5年度庄内町青少年育成町民会議交付金について、現在の町民会議の活動状況はどうか。また、県民会議との関係とか外部との繋がりはどうか。

【事務局】近年だと5月に総会を開催し、終了後に研修会を開催している。今年度は聖徳大学の福留強先生を招き、子ほめ条例というテーマでお話しを頂いた。毎年実施している標語募集のほか、今年は何年かぶりに善行の青少年表彰ということで、狩川の中学生を表彰することができた。各地区、各まちづくりセンターと連携しながら取組を行っていきたくと考えている。県民会議との連携としては、会議や研修へ参加、標語が該当すると思う。

(3) 社会教育委員会活動予定について

【事務局】第14回山形県社会教育研究大会について、資料に基づき説明
～質問、意見なし～

(4) 併任する役員の選出について

【事務局】資料に基づき説明

山形県社会教育連絡協議会評議員及び第14回山形県社会教育研究大会実行委員に柿崎議長が選出された。第14回山形県社会教育研究大会実行委員会監事及び響ホール事業推進協議会委員(理事)に上野副議長が選出された。

9 報 告

(1) 令和5年度社会教育施設関係工事の状況について

【事務局】資料に基づき説明

【議長】アスベスト調査業務委託について、森森の体育館にアスベストがあるということか。

【事務局】有るか無いか、これから調査するものである。

(2) 休日における部活動の段階的な地域移行の状況について

【事務局】資料に基づき説明

～質問、意見なし～

(3) 庄内町スポーツ推進計画について

【事務局】資料に基づき説明

【委員】基本目標の庄内町のよさを生かしたというのを見たときに、具体的にどのようなことを指しているのか。

【事務局】いろいろあると思うが、庄内町のスポーツ施設は充実していると言われている。子どもからお年寄りまで楽しめる施設となっている。施設を十分利用できるように総合型スポーツクラブやスポーツ協会の体制もしっかりしているので、連携しながら進めていきたい。施設面とか人的な組織体制面が庄内町のよさと思っている。龍神マラソンもその一つであり、歴史や文化も併せてスポーツを楽しめるのも庄内町のよさの一つではないか。

【委員】漠然としている。ハード面が整備されているとか、人的な面でも有能な方もいるでは具体的ではないように感じる。

【事務局】人的なところで言うと、休日の部活動の地域移行のこともある。庄内町の場合は先行していて、指導者がいない部活動がほとんど無い、あるいは少ないというところからスタートできる。自分が育った庄内町にまた戻ってきて、指導してくれる人に育っている。人の循環というのも充実しているというのが庄内町の特長ではないかと実感している。施設の充実というところでは、コメっちも立川地域での体育館の利用ということで、いろいろな仕掛けをしてくれている。スポーツ協会もニュースポーツ、モルックの普及にも努めるなど誰でもスポーツに親しんでいけるように取り組んでいる。町民の皆さんが何かやりたいと思ったときにスポーツに親しみやすい環境にあると思っている。

【委員】中にどっぷり浸かっていると庄内町のよいところとは何かと聞かれたときに、いっぱいありすぎるのか具体的に言葉にして伝えるのが難しいことがある。良い面はアウトプットしていくことも策ではないか。

【教育長】一つは指導体制に関して、庄内町はスポーツ協会から指導者が各種目から上がってくるが、鶴岡市だと各学校でコーチを探す必要があり非常にそれが大変であった。保護者の方でスポーツをする方がいた場合、その方に頼むということがあった。もう一つは施設面に関して、学校を取り上げて話せば余目中学校は体育館が2つあるし、グラウンドも2面使えるし、武道館も近くにあるし、八幡公園の体育施設も使える環境にあり非常に恵まれている。立川中学校も柔剣道場がある。私自身もコロナ禍で学校が休校になっていたときに、八幡スポーツ公園の周りをウォーキングやジョギングしたりして、町民の方々の利用を再確認したところだ。自分も庄内町を離れてみて、町のよさに気づいたことがたくさんあった。

10 その他

～質問、意見なし～

11 閉 会 社会教育課長（午前11時50分）